

連合審査会 「ワクチンパス」 に議論百出

未接種者への差別懸念 付帯決議の提案も
自民・公明が可決 / 共産・リベラル群馬・令明は反対

ワクチンを2回接種した県民を対象に13日から登録開始予定の「ワクチンパス（パス）」について10月6日、群馬県議会産経土木・総務企画・健康福祉の各常任委員会の連合審査会が開かれました。自民党などから「違和感がある」など異論の声もあがりしました。

15日から開始する「愛郷ぐんまプロジェクト」（県民が県内の旅館等に宿泊する際に5000円補助など）の第3弾の参加には、パス保有が条件です。今回新たに、PCR検査の陰性証明（自己負担）を受けた人も追加されました。

酒井宏明県議は同審査会で、接種有無はセンシティブな問題で、パスを持たない人への差別や同調圧力につながると懸念する県民の声を紹介。パスの有無が商業施設などの入店制限などに波及しないよう対策を求めました。県は、パスは義務ではなく、経済を回すためのものだと弁明。

酒井氏は「県は感染防止のためと言うが、パスの発行で、ワクチン接種すれば大丈夫というメッセージを出しては逆効果だ。感染防止には、いつでも誰でもどこでも受けられるPCR検査体制の構築が必要だ」と述べました。

この後、総務企画および産経土木常任委員会に付託され、共産党・リベラル群馬（立憲民主党など）・令明（保守系）は反対しましたが、自民・公明両党の賛成で可決。「ワクチン接種できない方への不公平や差別、心理的負担が生じないように十分配慮する」などを盛り込んだ付帯決議が発議されました。いずれも12日の本会議で採決されます。